ふるさとの自然 34

かわいらしい冬鳥 ジョウビタキ

○鳴きながらおじぎ

冬になるとたくさんの鳥たちが、寒い北の国から暖かい地方に渡って冬を越します。ジョウビタキもそのような冬鳥で、シベリア南部や中国北部などから日本に渡ってきます。スズメぐらいの小さな鳥で、雄は銀白色の頭と赤茶色のおなか、翼にある白い模様が特徴です。

市内では町中の庭や公園、林のへりなどに住み、屋根やアンテナ、くいの上などに止まっている姿を見掛けます。小さな声で「ヒッ、ヒッ」と鳴きながら頭をぴょこんと下げておじぎをします。人をあまり恐れないので、すぐ近くで見られることもあります。

○車にふんが

ジョウビタキの餌は小さな木の実や小動物などです。縄張り意識が強く、近くに別のジョウビタキを見つけると追い掛けます。車のバックミラーの前に、鳥のふんがたくさん付いていることがありますが、ジョウビタキの仕業です。鏡に映った自分の姿を縄張りに入ってきたライバルだと勘違いし、攻撃しに来ているのです。

（旭市文化財審議会委員　齊藤敏一）